奈良町の
ちょっといいところを
見て知る秋の1週間
ーきたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺ー
奈良町見知ル
2023

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.12

企画参加者交流会 2023年6月14日(水)

奈良町見知ル恒例の企画に参加されている皆さんとの交流会を開催しました。

奈良町見知ルの目標の一つに、イベントを通して「きたまち」「ならまち」「高畑」「京終・紀寺」の個性を、それぞれのエリアで活動している人たちが理解し合うことを掲げています。そのためには交流が大事！ということで、昨年の見知ルから実施しているのが、各エリアの皆さんが企画を考える段階で交流する「企画参加者交流会」です。

2023年の今年は、それぞれのエリアの企画を盛り上げるだけでなく、見知ルのイベント全体がもっと良くなるようにと、いろんなアイデアが出てきました。今年は、「巡ル奈良町」が大きなポイント。「エリア内を楽しみながら巡ってもらえるように、このメンバーが独断で選ぶエリアの良いところを紹介するMAPを作成してみては？」とか、「御朱印帳やシールラリーのように何かを集めると巡る楽しさもアップするのでは？」といった、楽しそうなアイデアがいっぱい。

今後、実現できそうなものを実行委員会でも話し合っていきます。

聞ク読ム見知ルの実行委員

聞き手：天理大学　田中 梨絵

企画参加者に話を聞いてご紹介します！

きたまちエリア

－自己紹介－

東大寺の裏で工場跡事務室というカフェの運営をやっている喜多 和夫と申します。

－今日の感想は？－

このようなイベントに参加すると思うことがあるのですが、イベントに参加している人同士がお互いを知れる機会はあるようでないことが多いんですよね。でも、奈良町見知ルは最初の頃からこのような機会を設けてくださっているので、今日もいろんな方と知り合える良い機会だったと思います。

－今年の意気込みは？－

工場跡としては例年通り今も残っている工場の設備を見ていただくことは変わらないのですが、新たに分かってきたことや見やすい工夫を考えているので、そういうところを楽しんでいただけるように、まだまだこれから準備を頑張ります。

工場跡 主宰　喜多 和夫さん

京終エリア

－自己紹介－

北京終町で、醤油、味噌、麹、その他の加工品の製造販売を行っている井上本店の吉川 修と申します。

－今日の感想は？－

地域のつながりという意味では、確かにいろんなイベントがたくさんあるのですが、なかなかつながりにくい部分がやっぱりあって。私は３回目の参加になるのですが、その点では、見知ルは参加している人たちがつながっていける、良い機会になるイベントなのかなと思っています。

－今年の意気込みは？－

うちも基本的には従来通り、中に入っていただいてというのは期間内で１回程度になります。ただ、巡るという点で、レンガの建物を外から見ていただく、もしくは外に漂う香りを楽しんでいただくなど、なんらかの方法で工夫ができれば、今までと違った形でも参加させてもらえるかなと思います。

井上本店・イゲタ醤油醸造元　代表取締役　吉川 修

次回の実行委員会

第４回　2023 年 7 月 21 日（金）

第５回　2023 年 8 月 18 日（金）

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.12

2023 年 7 月 21 日発行

編集責任者：杉山 晋平（天理大学）

編集担当者：田中 梨絵（天理大学）

連　絡　先：shimpei@sta.tenri-u.ac.jp

© 奈良町見知ル実行委員会 2023